

2014年(平成26年)4月28日(月曜日)

日本食糧新聞



物

流

オートサービス滑川新工場が竣工

365日24時間の稼働

アサヒロジス
ティイクス 滑川営業所を開設

横塚正秋会長



横塚元樹社長

食品物流に特化しているアサヒロジスティクス(埼玉県)は、3月に同社の滑川営業所とトラック運行の中心拠点となる子会社アサヒオートサービス滑川新工場(埼玉県比企郡滑川町)の給油設備を備えた。アサヒオートサービス全体で2

の輸敷地面積3400坪を竣工した11写真。新工場は最新の設備を導入し、特にガソリンは東日本大震災の教訓を踏まえて100klの給油設備を備えた。アサヒオートサービス全体で2

40klの備蓄能力があり、有事に備えて全車両721台の10日分を賄うことができる規模となった。アサヒオートサービス滑川新工場が365日24時間稼働すること、アサヒロジスティクス滑川営業所の関東を中心にCVS、SM、外食など1万店舗への食品の配送を全面的に支援していく。

整を行うと、安全を備えると同時に燃費も良くなる。板金、塗装ブースも備え、国交省代理の指定工場を目指す。

滑川新工場は、7修理ラインからなる。車の下を調べるピットの深さは150cmで作業車の労働改善をしている。タイヤの横滑り対応テスターでタイヤの調

屋上には192枚のモジュールパネルを設置し、アサヒオートサービス太陽光発電所とした。発電容量は年間5万1000kWの発電を計画している。この発電の取り組みはアサヒロジスティクスの営業センターと併せて7カ所目となり、会社合計で毎月2000kW以上の能力を有する。

横塚元樹社長はトラック

横塚正秋会長は「以前は、車は壊れて当たり前のものだった。しかし、物流規模が拡大し、担う使命も大きくなってきた。新工場は、事前の定期点検でトラックを故障させない、止めないための手段である」と語り、アサヒロジスティクスを使って良かったと安心してもらえる企業を目指していく。

運送、物流業の置かれている環境は、ドライバー不足、燃料の高騰、輸入商材の高騰、消費税増税と厳しい中で「来年の1月は創業60周年を迎える。約1万店舗に命に直結する食品を運んでいる。どんな状況でも、要望される品物をしっかり届けたい」と語る。